

## 呑川レポート 2014-8

### 多摩川のアユ遡上その1

いよいよ、「多摩川」のアユの解禁日も迫りました。

「呑川」のアユも、過去に1回撮影出来ただけで、その後の遡上を確認出来ていません。



「多摩川」と「呑川」は、「海老取川」（海老取運河）でつながっています。

多摩川のアユは、近年、数百万匹という大量遡上ですので、河口付近にいたアユが、「海老取川」経由で「呑川」に遡上して来る個体があっても、おかしくは無いと思います。

実際、東京湾には直接つながっていない都市河川「神田川」にも、毎年アユが遡上してきているのです。

そこで、まずは「多摩川」のアユの遡上状況を確認しに行きました。ここに上がってきていないようでは、「呑川」で見ることが出来ないと思われるからです。

#### 1) 大潮・満潮のアユ遡上



この日 (5/18) は「大潮」です。

「満潮」になるのは朝の6時頃ですので、早朝5時頃に家を出て、「調布堰」(中原街道が多摩川を横断する「丸子橋」付近)に向かいました。

やはり「大潮・満潮」とあって、早朝から釣り人達が来ています。小学生も、こんな早朝に来ているのにはビックリしました。



「調布堰」は、この時期、開いたままになっています。でも、ここを越えていく魚影を見つけることが出来ません。



「調布堰」の上流側にも回って見てみましたが、やはり、アユの魚影を見つけることは出来ません。

「満潮」で潮位が高いせいか、「堰」の「段差」も見られなく、とうとうと水が流れていきます。

しばらく観察を続けましたが、水面には空の反射が映るだけで、この日は残念ながら帰ることにしました。

ところが、数日経って、TVや新聞の報道に寄れば、

”この日(5/18)は今シーズン最高のアユの遡上があった”そうです。

こうなると、なんとしても実際に「アユの遡上」を見たくくなります。

そこで「作戦」を変更することにしました。





ここは「呑川」の「仲之橋」(久が原) 付近の「段差」です。  
ここに、コサギが良くやってきて漁獵をしています。  
こういう「段差」を飛び上がって来る魚は、見つけやすく、  
捕らえやすいのでしょうか。

そこで、こんどは「調布堰」の「段差」が現れる時間、つまり  
「満潮」でなく、「干潮」の時間帯を狙って出直すことにしました。

## 2) 干潮時のアユ遡上



「干潮」の時に戻ると、調布堰にはやはり「段差」が見えて  
いました。

浅瀬も現れ、ここで水遊びをしたり、川の中に入って釣りをする  
人など、「満潮」とは打って変わった光景となりました。



調布堰の段差は、上流からの水の流れが落ち込み、激しい白波が立っています。

ここを昇る「アユ」が見えると良いのですが・・・



堰の「段差」部分に、気持ちを集中して観察すると、矢印の先に、飛び上がる魚が見える時があります。

私の持っているカメラのレンズでは、これが精一杯なので、矢印付近をトリミングし、デジタル的に拡大を試みましょう。



こうして見ると、白波から飛び上がっている魚は、やはり「アユ」の稚魚です。

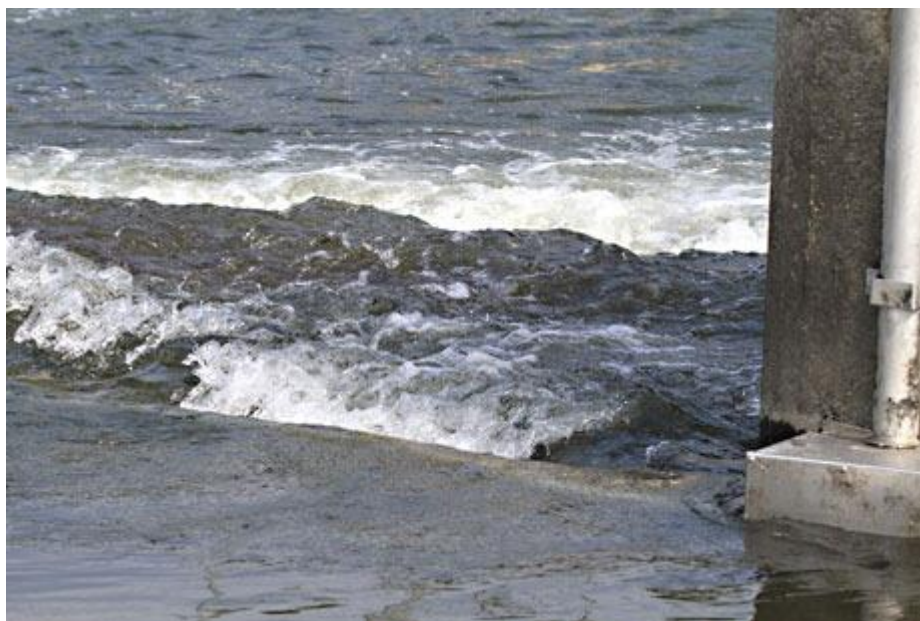
同じように、調布堰を昇る「アユ」を、トリミング拡大して見てみましょう。





激しい波に翻弄されながらも、果敢にジャンプしている姿が多く見られます。

やはり、この時期に「アユ」は多摩川を遡上してくるのです。



堰の「段差」の下で飛び上がる「アユ」を見ていると、とても心もとなく、「段差」の上まで登り切っているのだろうかと思ひになります。

そこで、段差の上流側に移動し、ここに昇ってくる「アユ」を観察して見ることにしました。



しかし、いくら気持ちを集中して観察しても、手前の白波を越えてやって来る「アユ」は見つけれません。  
矢印の先に見えるように、「段差」の下でジャンプするアユがほとんどなのです。

矢印の先のアユも、トリミング拡大して見てみましょう。



アユのジャンプ力は、本当にすごいですね。





しかし、アユのジャンプ写真を撮っている内に、自分の腕と、カメラの能力の限界も感じました。ジャンプする瞬間の小さなアユに、正確にフォーカスするのは難しく、この写真のように、飛んで動くアユにピントを合わせきれず、どうしても背景の泡の方にピントが合ってしまうのです。おかげで大部分がピンぼけ写真の量産となりました。

さて、段差の上をアユが遡上する姿を、もう少し追ってみます。



激しく流れ落ちる水しぶきの中を、よく見てみると、数多くのアユがもがいているのが見えます。やはり、上まで昇っていないのでは無く、必死に激流の中を昇り、あまりの水の勢いに、そう簡単にはジャンプ出来ず、水の中でもがいているのでしょう。





段差の下のアユと違って、なんとか飛び出しても、低く飛び上がるのが精一杯のように見えます。



そして、多くのアユは再び落下し、激流の中に呑み込まれていきます。



渾身の力を振り絞ってジャンプしたのに、堰の上まで上がれずにこうして水面に落ちていく姿を見ると、こちらもとても切なくなってきました。

撮影をしながら「ガンバレ、ガンバレ！」と声を掛けずにはられませんでした。

この「干潮」時の厳しさをまのあたりにして、「魚道」なら楽に登れるのでは無いかと、見に行きました。



これは「調布堰」に設置された「魚道」です。

なだらかな傾斜を作り、途中で深みも作り、休みながらも遡上出来るように出来ています。

しかし、魚はほとんど利用していないようです。

アユは、ここよりも流れの速い急流の方こそ、好きなようです。

「魚道」は作れば良いというものでなく、試行錯誤しながら改良を続けて行かないとうまくいかないもののようです。

この場所でも、大学のいくつかが挑戦をし、仕掛けを置いて成功もしているようです。

それでも、魚の種類や季節、上流・中流・下流と条件が違い、これならば絶対という訳にいかないそうですから、難しいものです。

さて、干潮時の段差で、アユの遡上を確認することが出来ました。

しかし、遡上数が多いと思われる「満潮」の時、見られなかったのはとても残念です。

どうやって「満潮」の時の遡上を見る事が出来るか・・・

もう少し挑戦してみたいと思います・・・（次回に続く）



---

(当面の日程)

- 2014/5/28 (水) 「大田区との意見交換会」 10:30 大田区役所 902号室  
2014/5/30 (金) 「おなづか小学校・呑川ウォーク」 8:30 おなづか小学校  
2014/6/7 (土) 「呑川悪臭ヒヤリング」 9:00 太平橋児童公園  
2014/6/14 (土) 「呑川の会・定例会」 13:30 蒲田小学校・会議室  
2014/6/26 (木) 「呑川ネット・定例会」 10:00 生活センター講座室  
2014/7/24 (木) 「呑川の会・定例会」 10:00 洗足池図書館・多目的室

\*7月の定例会はみんなの都合により、7/15から変更になりました。

---

-----photo essay by-----

高橋 光夫

〒145-0061 東京都大田区石川町 1-26-8

(tel) 03-3727-8419 (fax) 03-3727-8505

(mail) mitsuo.takahashi@nifty.com

---